

プレスリリース

朴栖甫 展

2022年3月26日（土） - 5月7日（土）

東京画廊+BTAP | 東京

東京画廊+BTAP では、3月26日(土)より「朴栖甫」展を開催致します。

朴栖甫 (Park Seo-Bo) は 1931 年、韓国の慶尚北道醴泉生まれ、1954 年に弘益大学美術学部絵画科を卒業し、モノクロームの線画や韓紙の質感を活かした作風を発展させました。韓国現代美術の先駆的存在であり、単色画 (Dansaekhwa) を代表する作家です。単色画の源流とされる『5つのヒンセク<白>:韓国五人の作家』展 (1975 年、東京画廊) に参加し、その後も弊ギャラリーで計 6 回の個展を開催してきました。本展では「後期描法」の 15 点にドローイング 2 点を加えて、17 点の作品を展示致します。

朴の「描法」シリーズは、三つの手法に分けることができます。1960 年代後半からの鉛筆の線画を描いた「前期描法」、韓紙を用い始めた 80~90 年代の「中期描法」、そして 2000 年以降の「後期描法」です。本展で展示される「後期描法」の作品は、「色描法」とも呼ばれるとおり、水を含んだ韓紙の上で反復される縦線の立体感と、鮮やかな色面が特徴的です。

「後期描法」は、2000 年秋の個展に向けて来日した際の、磐梯山 (福島県) 訪問をきっかけに生まれました。山頂から見下ろす紅葉の風景は、風向きで刻々とその表情を変え、まるで「押し寄せてくる炎のようだった」と言います。自然の色彩に魅了された朴は、「後期描法」をスタートさせます。モノクロームの色面は自然との同化を示唆し、時代の変化を超えた慰めと労わりのメッセージを伝えています。

朴の作品の所蔵先として、東京都現代美術館、グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク)、グッゲンハイム・アブダビ (アラブ首長国連邦)、国立現代美術館 (韓国)、M+ (香港) があります。また、作家に関する文献に、*Park Seo-Bo: from Avant-Garde to Ecriture* (Kate Lim、Booksactually、シンガポール、2014)、また *Park Seo-Bo* (Lee JinJoo、Rizzoli、ニューヨーク、2022 年 4 月予定) があります。2021 年には、韓国のアートシーンへの貢献が評価され、大韓民国金冠文化勲章を受勲致しました。今年 4 月にはヴェネチア・ビエンナーレでの同時開催企画展が予定され、また現在、出身地である慶尚北道醴泉で、朴の美術館の建設が進行中です。

本展の開催と合わせて、峯村敏明氏 (美術評論家) と Kate Lim 氏 (美術評論家) による評論文を掲載したカタログを 6 月に出版する予定です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

東京画廊+BTAP プレス担当: 鈴木佳世

e-mail: info@tokyo-gallery.com / website: www.tokyo-gallery.com

開廊時間 | (火-土) 12:00-18:00

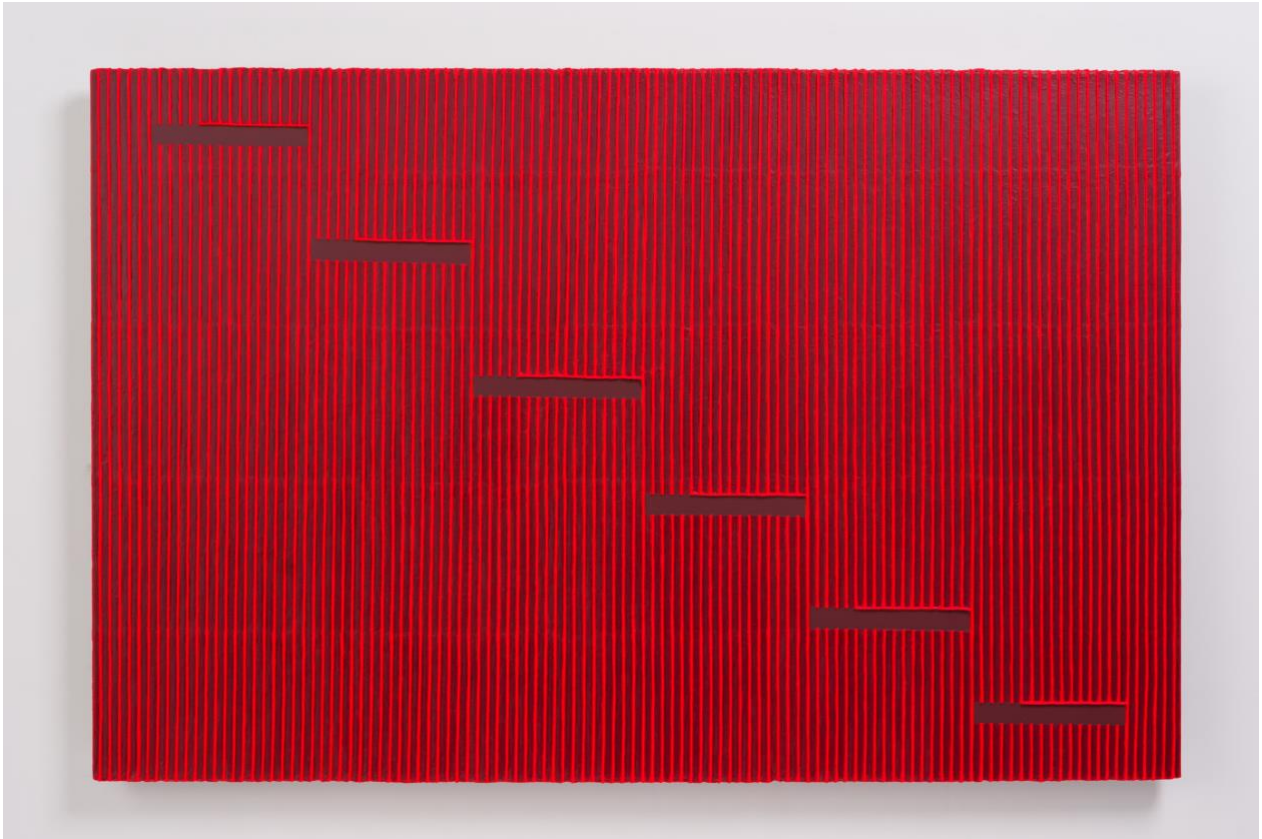
休廊日 | 日、月、祝

東京画廊+BTAP | 東京

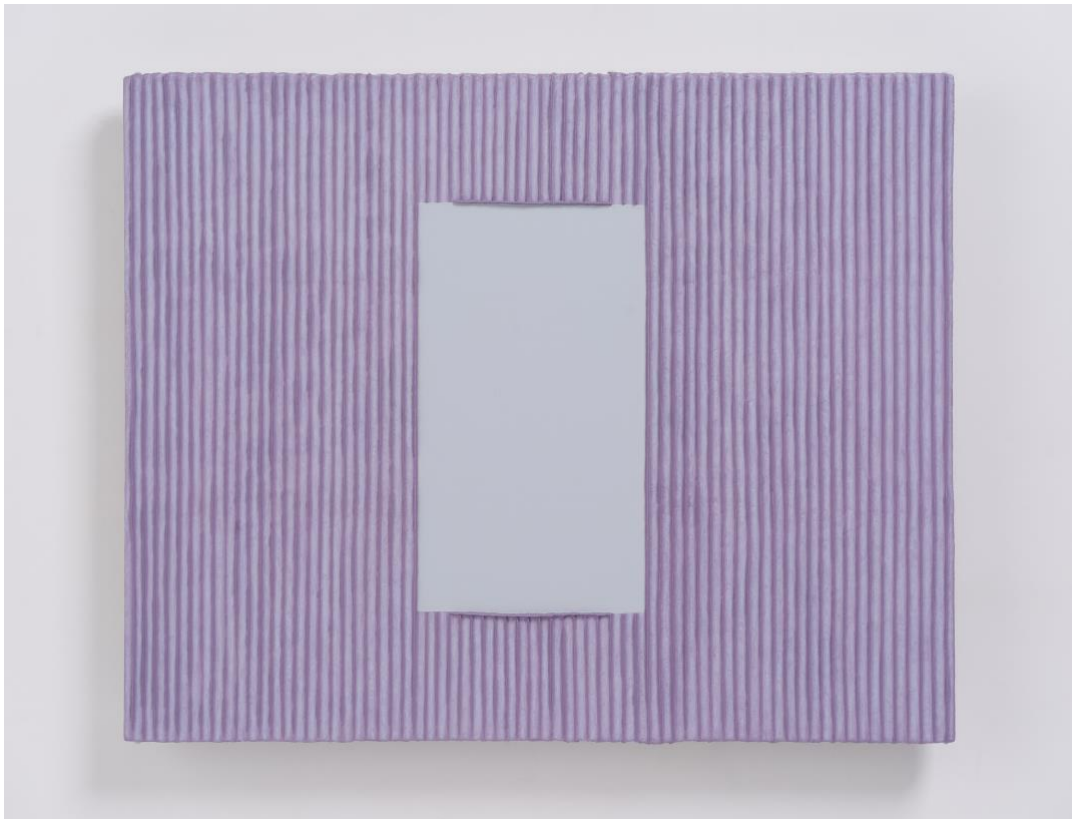
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第 4 秀和ビル 7 階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

www.tokyo-gallery.com



<Ecriture No.140112> (2014) Mixed media with Koean paper *Hanji* on canvas, 130 × 200 cm



<Ecriture No.090725> (2009) Mixed media with Koean paper *Hanji* on canvas, 80 × 100 cm